

令和4年度 刈谷市 共存・協働のまちづくり推進委員会 第1回コーディネーター部会会議 記録

日時：令和4年8月17日（水）午前10時00分～午前11時30分
場所：刈谷市役所 603会議室

出席者

団体名・役職等	氏 名
愛知教育大学 教授	大村 惠
刈谷市自治連合会	杉本 常男
文化工房かりや 代表	久保田 富士子
刈谷市ボランティア連絡協議会 副会長	矢田部 寿子
一般公募	大野 裕史

欠席者

団体名・役職等	氏 名
株式会社おたより 代表取締役	塚本 裕晶
刈谷市小中学校長会	尾出 知子
一般公募	及川 裕太

事務局

所 属	補 職 名	氏 名
市民活動部市民協働課	課長	渡部 貴美子
市民活動部市民協働課	課長補佐兼協働推進係長	小原 崇照
市民活動部市民協働課	主事	内藤 佑佳
NPO法人ボランティアネイバーズ	副理事長・調査研究部長	三島 知斗世
NPO法人ボランティアネイバーズ	理事・事務局長	遠山 涼子
NPO法人ボランティアネイバーズ	事務局	加古 麻理江

1 開会・あいさつ

- ・定刻になり、課長補佐兼協働推進係長が開会を宣した後、資料確認を行った。（略）

2 議題

(1) 部会長あいさつ

部会長より挨拶が行われた。

- ・コロナ禍での活動についてこれまで以上にまちづくりや地域社会における活動の活性化は大事な課題である。コーディネーターのネットワーク化、市民の参加をどのように実現していくか議論いただきたい。

(2) まちづくりコーディネーターについて

ア 基本方針

■【資料1】を提示し、まちづくりコーディネーターについて事務局が説明
(令和3年度の活動実績)

- ・まちづくりコーディネーター（以下、まちコ）とは、地域の課題を「自分ごと」として考え行動し、ボランティアや市民などをつなぐお手伝いをする「まちのお世話役」である。

ア：派遣：6件

- ・住民会議やコーディネーター部会に係るヒアリング、市民団体の実行委員会のファシリテーションなど。

イ：まちコゼミ：全16回開催

- ・まちコ自身が学びたい内容を選んで参加。守随ゼミ（ファシリテーション）3回、大野ゼミ（オンライン）8回、塚本ゼミ（広報）5回を行った。大野ゼミではzoomミーティングやホスト開設を実践した。

ウ：交流会：2回

- ・11月27日「まちコ活動収穫祭（活動情報や経験の共有）」参加9名、3月5日「守随さん最終ゼミ&感謝をお伝えする会」参加14名を開催した。

（令和4年度の活動について）

ア：派遣：4件

- ・ワールド・スマイル・ガーデンーツ木実行委員会、中部地区社会福祉協議会、刈谷市自治連合会、刈谷市長寿課へファシリテーターを派遣。昨年度よりも、年度初めの依頼が多い傾向がある。

イ：まちコゼミ：概ね2ヶ月に1回開催

- ・大野ゼミ（オンラインの活用法）、塚本ゼミ（まちコ活動のフォローアップ）

ウ：交流会

- ・10月15日（土）に開催予定。まちコ同士の交流を深めることに重点を置き、活動報告、ゼミの活動や個人での活動を共有する。

エ：まちコ育成講座「つなぎの学び舎」

- ・「実践編 みんなの対話お助け隊コース」を6月5日から開講。月1回・全5回開催。
- ・「実践編 まちづくり活動お助け隊コース」10月1日から開講。9月1日号市民だよりに受講生募集記事を掲載する。

■質問・意見交換

（住民会議での役割）

部会長：昨年度の住民会議のファシリテーション2回はどこで行われたか。

事務局：高須地区である。事前会議が1回、実施が1回のため、2回としている。まちコ2名と元世話人の守随さん含めて3名で担当した。また、今年度は住民会議の予定はない。

委員：西部地区で元気な地域応援交付金（以下、元気交付金）を申請した。住民会議は日程の都合によりまちコの派遣を依頼せずに実施した。

事務局：8月5日の合同研修会にて、守随さんにまちコに関する紹介をしていただいた。参加された方にご感想等お聞きしたい。

委員：守随さんのお話はよくわかったが、まちコに来てもらうことでどんな変化があるのか、目に見えた効果がよくわかっていない。地区での取組は地域の人材で行えている。まちコは組織に所属した人であれば、その人や組織に直接頼むことはできるし、まちコの位置づけやまちコにはどんな人がいるかわからないため、活用方法がわからない。住民会議は開いたことはない。

部会長：住民会議は新しい取組として開催した地域では評価がある。役員だけでなく誰でも参加ができ、こどもから年配の方までが参加することで、今まで以上に地域の活性化につながることを期待されていたが、コロナ禍で開催できなくなっている。

事務局：効果は目に見えて伝わりにくいことがある。ファンレポのように、住民会議の記録としてまとめて発信すると良いのではないか。それでも文字だけでは伝わりにくい面もあるかもしれないが、まちコが関わることで、どのような効果が出てきたのか、具体的な情報とともに機能を伝えると良い。

事務局：コロナ以前はいくつかの地区で行われている住民会議にて、まちコが活躍していたが、コロナにより中断された。まちコが各々所属する団体の活動もまたコロナ禍で縮小傾向。コロナ禍での活動の継続に向けて対面だけではなくオンラインを活用して実施できる方法として大野ゼミを行っている。

委員：住民会議を実施して、元気交付金を活用するとのことである。事例では、川をきれいにする活動が紹介されたが、住民会議を行わなくても実施できるのではないか。

事務局：元気交付金の在り方については検討の必要性を感じている。大野委員は西部地区長として今年度申請された。コロナが明けた際に皆さんの活動の再開にむけて後押しをしていきたい。

（まちづくりコーディネーターとは）

委員：まちづくりを活発にするために、まちづくりに関わるコーディネーターを育成する必要がある。しかし、自治会の世話人や企業の中でその役割を担う人など、コーディネーターはまちの中にいる。講座修了生だけでなく、全体を底上げし、活動を活性化することも目指している。まちコになったら、住民会議等の派遣活動を行うだけでなく、自分の軸足を置く活動が活性化するきっかけになっていると思う。こうしたまちコ自身の活躍の情報は集まってこないため広がっていないように見えてしまう。

部会長：本部会は、広く捉えるとまちづくりに関わる方を増やすための部会である。実際にまちづくりに関わる人がいる地区では良いが、全体を見ると働き盛りの人は参加が難しいなど、減少傾向にある。コーディネーターとしては、自分の活動だけではなく、色々な活動とつながる橋渡しの役割である。住民会議はまちコの活動を広げる、参加する人が増えていくことを願って行っている。また、刈谷市では

まちコネットワークの中で、地縁組織と市民活動団体をつなげていくことも行っている。一緒にやれる場をつくろうとしているが、活動が停止している状況での検討は難しい面はある。10年程度のあゆみについて読んでわかるものがあるとよい。

委員：地域に精通した人材は多くいる。自治会の役員不足は課題である。

部会長：住民会議を行うことで、事業に当日参加するだけでなく、準備から意見を出し合っつけていく取組はこれまで行われていなかった。役員の掘り起こしの機会としてもとらえられる。

(まちコの広報)

部会長：まちコについて、どのような取り組みをしているのか、この活動を行っている理由を理解してもらうことから始める必要がある。資料はあるか。

事務局：まちコのパフレットにて、事例紹介を行っている。住民会議にてまちコが参加したことでどのような成果があったか、現場で参加するとわかるが、紙面だけでは伝えにくい。行政担当者ではなく、第三者からの話として伝えることが効果的と考え、自治連合会・公民館連絡協議会合同研修会では、元世話人の守随さんに講義をお願いした。コロナ禍で講座形式での開催となったためファシリテーターとしての役割や要素が伝わりにくかった。今後もまちコの活動を伝え広がる工夫を検討する。

委員：元気交付金は新しい事業に対して補助が出る。元気交付金の活動紹介を23地区の文化祭などで掲示してもらってはどうか。新たな資金をうけて新しい活動ができることが理解されれば、元気交付金についての広報や理解、まちコの広報となるのではないかと。また、住民会議は必ず毎回まちコを依頼しなくてもよく、自分たちで行うようにしても良い。ただ、役員だけで解決するのではなく、中学生や子どもの意見など住民参加型で行う点が良い。そのためにまず元気交付金の活動を知ってもらう。

部会長：いくつか事例をパネル化して提示して活用してはどうか。事務局で検討してほしい。

(元気交付金を活用する工夫)

委員：元気交付金をうけて活動中。公民館まつりのサブイベントとしてお宝さがしウォーキングを開催。景品や花火の購入費、HP制作費として20万円を申請した。3年が限度で、それ以降は自治会の経費で運営する。初年度はふるさとガイドボランティアやまちコ、2年目は中部地区社協に関わってもらった。今年は公民館の役員や市民、組長OB等とともに月1回実行委員会を開催。11月のイベントに向けて企画している。活動報告をつくり、参加メンバーや町内に回覧している。委員やボランティア数も載せて、昨年何をやったかわかるようにしている。定着したら、次の事業を元気交付金で申請したい。役員は面白いからやろう！という人もいれば、仕方なくという人もいる。2年任期で重なりをもたせている。1年で交代すると継承されないため、同じ事業になりがちである。

事務局：新しい事業をゼロからつくるのは負担なので、既にあるお祭りにサブイベントを入れたり、地域の運動会に大学に関わってもらするなど、既存の活動に追加する工夫をして活用することもできる。

(3) ■【資料2】を提示し、令和4年度以降のコーディネーターのネットワーク化について (共存・協働のコーディネーターを刈谷市で育てていくために)

- 平成21年度推進委員会の協議により、コーディネーターを育てる3つの方策を策定した。方策1：まちコの登録制度、方策2：つなぎの学び舎により実践したが、方策3：ネットワーク化は未着手である。
- まちコの他にも「コーディネーター」の役割を担う人を顕在化し、コーディネーター同士のネットワーク化を検討する。

(成果イメージ)

- コーディネーターの存在が顕在化し、コーディネーター同士が接点を持つことを通して、まちコの活動の周知が進み、まちコのすそ野が広がること。
- コーディネーターの活動や経験を学ぶ場を設けることで、まちコの知見が広がり、またまちコの活躍の機会が広がること。

(資料2-1、2-2：まちコのネットワーキングに関わるヒアリング)

- スポーツ推進委員、西部自治区へヒアリングし、まちコとの連携に向けて期待できることについて伺った。
- 地域にすでに役割としてあるコーディネーターとまちコとの連携に向けて、さらにヒアリングする必要がある。今年度は、資料2-3の組織に対してさらに同様のヒアリングを行う予定。

■質問・意見交換

(まちコとの連携について)

委員：西部地区にて元気交付金をいただいた事業1年目に、まちコに関わりをもってもらった。人が集まる公民館祭りとお重ねて行うことの意味が出てきた。色んな人を巻き込むことで、活動が活性化される。

(次のヒアリング先)

部会長：今年度のヒアリングも、自治会の活動とつなげていく点は大切であり、取り組むとよい。

事務局：昨年度は西部地区で行ったが、コロナの影響を見ながら他の自治会を予定したい。

委員：昨年、中部地区の自主防災会9地区が同時に防災訓練を行った。危機管理課も関わり開催された。今年度は全市で11月に開催予定である。同時開催であったため、コーディネーターが必ずいる。その取組についてヒアリングを行うこともいいのではないかと。防災は、安否確認、避難所開設、避難所運営と様々なステージがある。避難所の課題は子どもの遊び場。子どもと遊ぶ役割は重要である。

部会長：学生が消防団に関わることも増えた。阪神淡路大震災では、子ども対象の活動をする役割として避難所へ派遣していた。刈谷市では学生が校庭キャンプの手伝いを行っていたこともある。大学生も一緒に防災訓練をさせてもらいたい。

事務局：自主防災会に関するヒアリングができるよう、危機管理課へ相談してみる。

(地域学校協働活動)

部会長：地域学校協働活動について、モデル校を作り今後実施する予定。23年度以降に部活動の地域移行が行われる。スポーツ推進委員にヒアリングを行っているが、状況が変化している。また文化活動についても地域移行される。そのような取組に対して、まちコやネットワークがどのように関わられるのか。

事務局：部活動の地域移行は、スポーツ課、学校教育課が進めている。文化活動については吹奏楽部を中心に検討されているが未定である。地域学校協働活動は、刈谷市では富士松北、かりがね、双葉、衣浦の4小学校をモデル校として実施しており、地域コーディネーターが1～2名配置されている。

(まちコの広報について)

委員：ワールデンにまちコに来てもらったが、中に入ってしまうとどなたがまちコかわからなかった。まちコが存在について推進委員会に出ることで理解しているが、地域では伝わっていない。ワールデンの活動で初めて知った人もいた。まちコの目印があると、話し合うキッカケにもなる。存在を知らせる工夫がほしい。

事務局：まちコの中でも同じく話題があり、まちコのロゴを作った。ワッペンにするか、お金を出し合ってTシャツをつくるのか未定である。ご指摘の通りまちコとして見てわかるようになるとよいと思う。

委員：自治連合会にてまちコの名簿は配布されていたが広報はまだ十分ではない。まちコの活動分野や得意分野を紹介して市民協働課に相談をと市広報に載せてはどうか。知ってもらってはじめて意味がある。

事務局：名前を出さずに活動したい人もいる。個人での活動やまちコ以外でも活動を行っているなど、背景は様々である。市広報では、学び舎の募集等によりまちコに関する情報を掲載している。

部会長：刈谷市のまちづくりを一覧できるイベントなどはあるか。活動の種類や分野、関わる人の情報が集約され、市内の各事業が横につながるとよい。

事務局：市民の意見を聴く調査を行っていたが、難しい。様々な場面があり、まちづくり活動を行う活動は一覧にしにくい。

(4) ■【資料3】を提示し、令和3年度、令和4年度における市民が参加する会議等について

(市民が参加する会議等をアンケート調査)

- ・刈谷市「共存・協働のまちづくり推進基本方針」に基づき、市民参加を進めている。市民が参加している会議等について刈谷市庁内にて、調査を実施した。

■質問・意見交換

(まちコが参加できる会議)

部会長：大野委員より、まちコに関わる形で行ったとのことだが、どのように行ったのか。

委員：市民公園づくり会議にて市民公募があると聞き、まちコを市民の一人として紹介して公募に参加してもらった。最終的にはまちコとして声かけられる形になると良いが、まずは公募を集める部署にまちコを紹介して、市民公募に関わってもらおう。参加した会議で、まちコに関してのアピールを行う。市民委員があるところで、まちコに関わるとよさそうな取り組みが多数ある。

部会長：今後予定している会議に、まちコに関わってもらえるように仕掛けていくのはどうか。市民協働課からは公募の情報をまちコへ紹介する。これらが通常業務として継続されるとよい。

委員：担当部局も人員集めに苦勞するだろうからお互いにとってプラスではないか。

委員：関わってもらいまちコは、毎回同じ人ではなく、様々な人に関わってもらおうようにした方がいい。

部会長：それぞれの関心で参加するとよい。

事務局：まちコが参加するだけでなく、その課題に対してどのような人が関わると良いのか、まちコがアイデアを出すような貢献もあり得る。

部会長：参加した情報をまちコで共有することで経験が広がる。市民活動でのキャリアも重要である。

委員：公共交通に関する市民会議が今後実施される。まちコが参加できないのか。

事務局：公共交通に関する会議には、団体を通じた市民として参加が予定されている。利用する市民に対しては、アンケート調査を行う予定である。

3. その他

(1) 市民協働課より連絡

【コーディネーター部会】

・第2回 令和5年1月26日(木) 10時～ 刈谷市役所301会議室

以上